第１学年　国語科学習指導案

１年１組　　１９名
指 導 者　　島　田　美　英

１　単元名　　おんどくげきをしよう
「おとうとねずみ　チロ」（東京書籍　１下）

２　指導にあたって

（１）単元設定の理由

本学級の学習者は，絵本を読むことや音読することが好きである。また，保護者や教師による読み聞かせも楽しみにしている。朝の読書の時間には，学級文庫から読みたい本を持ってきて楽しそうに読んでいる姿をよく見かけるようになった。これまでの国語科学習において，「てがみ」（６月）では，音読発表会をし，みんなで声を合わせて読んだり声の大きさを考えたりすることができた。「おおきな　かぶ」（７月）では動作化を取り入れることにより繰り返しの物語のおもしろさを味わうことができた。このような指導を通して，物語のあらすじや登場人物の行動を捉えることはできるようになってきたが，登場人物の気持ちを想像したり，みんなの前で気持ちを込めて読んだりすることはまだ十分とはいえない。

教材文「おとうとねずみ　チロ」は，主人公であるチロの気持ちや考えが明確に描かれている。おばあちゃんから届いた手紙をめぐっての三きょうだいの会話から物語が展開する。自分にはチョッキが届かないのではないかと心配したチロが，誰の力も借りず遠くの丘の木の上に立っておばあちゃんに「ぼくにもチョッキあんでね。」と呼びかける。後日，自分にもチョッキが届いたことによりもう一度木の上に立ってお礼を言う姿が描かれている。このチロの行動は，自分のことは自分でしようとする気持ちが芽生え始めてきた１年生にとって，自分自身のことと重ね合わせて読むことができるであろう。

本単元は，交流会での音読劇の発表をゴールに位置付け，「おんどくげきをしよう」という学習課題のもとに，一人が一役を担う中で主体的に学習に取り組めるようにする。交流を続けている幼稚園の子どもたちに楽しんでもらいたいという相手意識をもたせることにより，学習者は意欲をもって活動するであろう。その際，音読を中心的な言語活動として取り入れ，声に出して読むことによって場面の様子や登場人物の気持ちを読み取らせ，登場人物の様子や思いなどについて想像を広げながら読み深めていきたい。そして，読み深めたことをもとに，会話文などの後に台詞を書き加えたり，新たに会話文をつけたしたりしてグループごとに音読劇の台本を作り，互いの音読劇を発表し合う中で，さまざまな読みがあることに気付かせたい。このことが学習者の読書の世界を広げることにつながると考え，本単元を設定した。本時は，音読劇のリハーサルを行う。幼稚園での発表会に向けて，友達などの前で声に出して読むことに慣れるとともに音読劇を楽しむことができるようにしたい。また，互いの音読のよいところを認め合うことにより自信をもたせ，幼稚園での発表会に向けての意欲づけを図りたい。

（２）活用する力の育成を図るために

本単元における活用する力を育成する場は，特に，第３次の登場人物の台詞を自分なりに考える場である。第２次での一斉学習で読み取ったことを土台として担当する登場人物の台詞を考えて書くことにより，場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読み取ることができると考える。台詞を考える際，自分の生活とことばを結びつけながら読むことができ，さらに台本作りにより交流を図ることができると考える。本時は，第５次の第１時にあたる。ここでは，楽しく音読劇ができるように，練習時間を十分とるとともに自信をもって音読するように支援を行う。

3　単元の目標

（1）学習者の活動目標

おんどくげきをしよう。

（2）指導目標

○　易しい読み物に興味をもち，楽しんで読むことができるようにする。

○　場面の様子や登場人物の気持ちなどについて想像を広げながら読み取り，友達などの前で声に出して読むことができるようにする。

○　自分が担当した役割や登場人物の台詞を想像して書くことができるようにする。

4　単元の評価

	評 価 規 準	○「十分満足できる」と判断される状況 ◎「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心・意欲・態度	易しい読み物に興味をもち，楽しんで読もうとしている。	○　登場人物に興味をもち，シリーズなどを意識しながら読もうとしている。 ◎　挿絵・お面・小道具や教師の工夫した範読により，興味関心を高め，読もうとする意欲を高める。	・学習者の様子 ・発言
読むこと	場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っている。 友達などの前で，声に出して読んでいる。	○　登場人物の言動をもとに想像を広げながら，読んでいる。 ◎　会話文や地の文の表現に着目させ，登場人物の行動や気持ちに気付くことができるようにする。 ○　声の大きさや声の表情などを工夫したり，体を動かしたりして楽しく読んでいる。 ◎　声を合わせて読ませたり友達の音読を聞かせたりすることにより，音読を楽しむことができるようにする。	・学習者の様子 ・ワークシート（学習の記録） ・学習者の様子
書くこと	自分が担当した役割や登場人物の台詞を想像して書いている。	○　登場人物らしさや前後の気持ちを想像しながら台詞を書いている。 ◎　参考例を示したり，台詞が書きやすいようにワークシートを工夫したりする。	・ワークシート

5　学習計画

学習活動	学習者の意識の流れ	主な指導・支援	身に付けさせたい力
【事前】 日常的に読み聞かせや音読（朝の活動）をする中で物語に対する関心を高めておく。	「てがみ」のきつねさんはやさしかったな。もっといろいろなお話に出会いたいな。 みんなの前で読むのは恥ずかしかったけど，おもしろかったよ。ちょっぴり自信がもてたな。 「大きなかぶ」では繰り返しのリズムがおもしろかったよ。音読を工夫するのは楽しいね。	☆　日常的に声に出す時間を位置づけることにより，声を出すことへの抵抗をなくしておく ☆「てがみ」の学習や音読集会での発表を振り返り，幼稚園の子どもたちの前で読みたいという意欲をもたせる。	お話の登場人物に興味をもって絵本に親しむ。
第１次　（２時間） ○　挿絵を見ながら，登場人物やあらすじをつかみ初発の感想を元に学習計画を立てる。	チロはかわいいな。やさしいお話だな。 おとうとねずみチロの音読劇をしよう。 幼稚園のみんなに聞いてもらおう。	☆　挿絵や教師の工夫した範読を通して音読劇への興味・関心を高める。 ☆　登場人物やあらすじをとらえやすいようワークシートを工夫する。	登場人物の心情に気をつけながら読む。
第２次　（３時間） ○　場面ごとに登場人物の行動や気持ちを考える。 ・おばあちゃんからの手紙が届いた場面 ・チロが丘のてっぺんから呼びかける場面 ・チョッキが届いた場面	登場人物の行動や気持ちを考えよう チロはいろいろ考えて行動しているね。おばあちゃんは３びきのことをよく知っているよ。 「チロのはないよ。」ってどんな声でいったのかな。 こだまの部分の読みを工夫しよう。 「どんどん」や「だんだん」ということばが繰り返しつかわれているよ。文字の書き方が変わっているね。	☆　役割読みなどを通して場面の様子や登場人物の気持ちを想像できるようにする。いろいろな役割を経験したり音読の機会を多くもつ中で音読劇への自信をもたせる。 ☆　会話文の中のことばや「どんどん」「だんだん」など様子を表すことばを他の表現や音声（いろいろな読み方）と比べるなかで気持ちを想像できるようにする。	姿勢や口形リズムなどに気をつけながら音読を楽しむ。 ことばをもとに場面の様子を思い浮かべながら読む。
第３次　（２時間） ○　グループに分かれ登場人物の台詞などを考える。 ・役割を決め担当する登場人物の台詞などを考える。 ・考えたことばをグループで発表し合いその場面の音読台本を作る。	登場人物の台詞を考え，台本を作ろう。 ぼくは，○の場面がいいな。 チロが自分の力でがんばろうとしているところを会話文にしたいな。 おにいちゃんたちはどんな気持ちで言ったのだろう。それによって言い方（音声）がちがってくるよ。 文の終わりのこのことばがいいな。この繰り返しってリズムがいいなあ。 ３つの場面の台本をまとめて，表紙をつけて自分たちの台本にしよう。	☆　全体を２つのグループに分けさらにそのグループを場面ごとに分けることにより，学習者が主体的に活動できる場を作る。 ☆　場面ごとに集まり，台詞を考えるようにする。挿絵やふきだしを使い，会話文の後などに台詞を書き加えるようにする。 ☆　書き加えた台詞を発表し合い，登場人物の気持ちを読み取ることができるようにする。	具体的な表現から想像を広げ，思ったことや気持ちをことばや文に表す。
第４次　（２時間） ○　音読劇の練習や準備をする。 ・お面小道具作り（図工１時間） ・グループに分かれて音読劇の練習（国語２時間）	みんなで音読劇の練習をしよう。みんなで合わせると楽しいね。。 ぼくはチロの役だ。元気なチロになりきって読もう。 おねえさんの役でちょっと意地悪な読み方をしてみたいな。 どんな動きで言ったらいいのかな。協力してよりよい劇にしよう。	☆　さまざまな音声表現を演示し聞き比べさせるなかで音読劇への意欲を高める。 ☆　声を合わせて読んだり友達の音読を聞いたりすることにより，自分なりの音読を工夫させる。 ☆　声を出すことに苦手意識が強い学習者には側で一緒に読むなど個別指導をする。	いろいろな音声表現の違いを意識しながら音読を楽しむ。
第５次　（２時間） ○　音読劇の発表をする。 ・リハーサルをする。（本時１／２） ・幼稚園で発表会をする。	上手に読めるようになってきたよ。 幼稚園のみんなに聞いてもらおう。 ○○さんのせりふはおもしろいなあ。 せりふも言い方も違うよ。 みんながんばっていたね。自分らしい表現になっているよ。 工夫して楽しい音読劇ができたね。今度はもりやまみやこさんのほかの本も劇のように読んでみよう	☆　同じ物語でも何通りもの劇になることを実感させ想像を広げることのおもしろさや音声表現の豊かさに気付かせる。 ☆　同じシリーズを紹介し想像しながら読もうとする意欲を喚起する。	友達の発表との違いや自分や友達のよさに気付く。 自分が興味をもっている本を見付ける。

6　本時の学習

（1）目　標

①学習者の活動目標

音読劇のリハーサルをしよう。

②指導目標

音読劇の中間発表を通して，自分たちのよさに気付くとともに，場面の様子，登場人物の気持ちを想像して表現することができるようにする。

（2）展　開

学 習 活 動	指導・支援	具体の評価規準	評価の資料
1　本時のめあてをつかむ。	○　読むときに気を付けたいことを発表させることにより，本時の学習への意欲がもてるようにする。		
おんどくげきのリハーサルをしよう。			
2　それぞれのグループが作った「おとうとねずみチロ」の音読劇を場面ごとに発表し，お互いに感想を述べ合う。	○　２つのグループの違いやよさに気付くことができるよう意図的に発表を組織する。 ○　読み手にはしっかり口を開け，自信をもって読むように励ます。 ○　聞き手には聞く観点を提示し，よいところを見つけられるようにする。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら人物になりきって楽しく音読している。 友達の音読を聞き，よいところを見つけている。	学習者の様子 発言
3　場面ごとの発表で「うれしかったこと」や「がんばったこと」を話し合う。	○　自分たちのよさを自覚的にとらえさせそのよさを発揮できるよう助言する。必要に応じて教師の評価を示す。		振り返りカード
4　グループごとに物語全体を通して音読劇の練習をする。	○　場面のつながりがスムーズにできるよう声をかけ，幼稚園での発表に向けての意欲がもてるようにする。		

(3)本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	場面の様子や登場人物の気持ちを様々に想像しながら，声の大きさや声の表情を工夫したり，体を動かしたりして音読を楽しんでいる。
「おおむね満足できる」状況にするための手だて	音読への意欲を高めたりなりきって読むことの楽しさに気付くことができるように，様々な音声表現があることを演示する。 自信をもって読むことができるように，十分な練習時間をとる。